

「安全保障と防衛力に関する懇談会」（第 7 回会合）
議事要旨

1 日 時：平成 30 年 12 月 11 日（火） 11：00 から約 50 分間

2 場 所：総理大臣官邸 4 F 大会議室

3 出席者：

・政府

安倍	晋三	内閣総理大臣
麻生	太郎	副総理
菅	義偉	内閣官房長官
河野	太郎	外務大臣
岩屋	毅	防衛大臣
杉田	和博	内閣官房副長官
藺浦	健太郎	内閣総理大臣補佐官
谷内	正太郎	国家安全保障局長
高橋	清孝	内閣危機管理監
兼原	信克	国家安全保障局次長
前田	哲	国家安全保障局次長
河野	克俊	統合幕僚長
北村	滋	内閣情報官
鈴木	哲	外務省総合外交政策局長
槌道	明宏	防衛省防衛政策局長

・有識者：

三村	明夫	新日鐵住金株式会社名誉会長（座長）
北岡	伸一	東京大学名誉教授・独立行政法人国際協力機構理事 長（座長代理）
青井	千由紀	東京大学大学院教授
岩崎	茂	A N A ホールディングス株式会社常勤顧問（前統合 幕僚長）
加藤	良三	元駐米大使
黒江	哲郎	三井住友海上火災保険株式会社顧問・国家安全保障 参与（元防衛事務次官）

坂元 一哉 大阪大学大学院教授
土屋 大洋 慶應義塾大学大学院教授
三浦 瑠麗 東京大学講師

4 議事概要

(1) 安倍総理から冒頭挨拶の中で①3か月という短期間で外部有識者からのヒアリングや自衛隊部隊の視察も含め集中的に議論していただいたことに御礼申し上げる、②政府の最も重要な責務は、国民の命と平和な暮らしを守り抜くことであり、我が国が独立国家として第一義的に果たすべき責任である、③激変する安全保障環境の下でこの責任をしっかりと果たすためには、国民の生命、財産、そして領土、領海、領空は我が国自身の自主的・主体的な努力によって守る体制を抜本的に強化していかなければならない、④同時に陸・海・空という、従来の区分にとらわれた発想から完全に脱却し、従来の延長線上ではない、未来の礎となる、真に必要な防衛力の姿へと、従来とは抜本的に異なる速度で改革を図っていかなければならない、⑤委員の皆様方におかれては、我が国が直面する困難な課題に対し、短期間の集中的な議論の中で、それぞれの御知見や御経験を存分に活かしていただき、我が国の将来における防衛力の在り方、目指すべき方向性につき、大変熱心に御議論いただいたことにつき心から感謝申し上げるといった旨の発言があった。

(2) 三村座長から冒頭挨拶の中で①懇談会では、本年8月の第1回会合での総理の御発言を受け、従来の延長線上ではなく、真に必要な防衛力のあるべき姿を見定め、防衛計画の大綱の見直しに向けた政府の作業に資するため、幅広く議論を行ってきた、②これまで6回にわたる懇談会の中では、我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさを増す中、新たな防衛計画の大綱のあるべき姿について、大局的見地と専門的知見を踏まえて、忌憚のない、極めて熱心な意見交換を行うことができた、③政府においては、本日の議論も含め、懇談会の本日までの意見をしっかりと受け止め、年末までに新たな防衛計画の大綱をまとめあげていただくことを期待する、といった旨の発言があった。

(3) 前田国家安全保障局次長から「平成31年度以降に係る防衛計画の大綱 骨子(案)」(配布資料:資料)について説明した。

（４）三村座長から、政府から説明のあった「平成３１年度以降に係る防衛計画の大綱 骨子（案）」には懇談会の意見がしっかりと反映されており、事務局の努力に敬意を表したいとの発言があり、懇談会の委員を代表して三村座長及び北岡座長代理から、①持続性の向上や防衛産業育成の重要性、②政府全体としての取組とその検証の重要性、③望ましい戦略環境を実現する取組の必要性、④海空領域の能力を確保していく必要性など、主な論点についての発言があった。

（５）各閣僚から懇談会における精力的かつ集中的な議論に対する謝意の表明等があり、最後に安倍総理から各委員の深い知見に基づく自由闊達な議論、数々の率直な意見に対して改めて感謝する旨の発言があった。

（以上）